

様式第6号（第20条関係）

番 号  
令和4年6月23日

佐賀県知事 様

住 所 佐賀市今宿町5番5号  
団 体 名 NPO法人クレブスサポート  
代表者職・氏名 理事長 吉野 徳親  
電話番号 0952-23-8231

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による  
寄附金活用実績報告書

令和3（2021年度）年5月13日付け県協第348号および令和4年（2022年度）2月7日付け県協第2153号により寄附金交付決定通知のあった佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して下記のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 活用実績報告書（様式第6号 別紙1）
- 2 収支決算書（様式第6号 別紙2）

令和3年度寄附金活用実績報告書

事業名	がんになっても安心して暮らせる地域社会の実現								
寄附受入額	12,729,750円								
事業内容(いつ、どこで、誰が、何を、どのように実施したのかについて記載)									
<p>&lt;1 がんサロン&gt;</p> <p>県内8か所でがんサロンを運営し、看護師経験のある相談員2名と「ピアサポーター」(一定の研修を修了した専門職)2名および事務スタッフを配置し、がん患者の見守りや癒しにつながる会話の誘導などを行い、療養上の不安や生活の悩みなどについて相談に応じた。コロナ禍の長期化に伴い、非対面・非接触を旨とし、感染対策に万全を期し、必要に応じてリアルとオンラインを使い分けて実施した。</p> <p>開催日時及び会場は下記のとおり。</p> <p>○佐賀市がんサロン「みずがえ」(毎月第2日曜日 15:00~17:00) 佐賀市、溝上薬局ビル</p> <p>○お寺がんサロン「浄照寺」(毎月第1日曜日 13:30~15:30) 佐賀市高木町、浄照寺</p> <p>○小城がんサロン「まちなか」(毎月第2火曜、第4土曜日 13:30~15:30) 小城市 ゆめプラット小城</p> <p>○上峰がんサロン「とっこらーと」(毎月第4日曜日 13:30~15:30) 上峰町前牟田、馬場邸</p> <p>○有田がんサロン「クローバーの会」(毎月第2土曜日 13:30~15:30) 伊万里有田共立病院</p> <p>○伊万里がんサロン「ひだまり」(毎月第1金曜日 13:30~15:30) 伊万里市。山元記念病院</p> <p>○美粧がんサロン「TWO LEAF」(毎月第3土曜日 13:30~15:30) 佐賀市、FUTABA 本店</p> <p>○地域交流がんサロン「精(しらげ)」(毎月第2土曜日 13:30~15:30) 佐賀市 サロン精</p> <p>前年度から取り組んでいる一部がんサロンとがん患者の自宅を結ぶオンライン Web 相談を引き続き行う。</p> <p>&lt;2 がん教育支援員の派遣と養成&gt;</p> <p>医師およびがん体験者を中心としたがん教育支援員をニ学期以降に県内小中高校13校に派遣した。派遣先の募集と選択については県教委と連携して行った。</p> <p>がん教育授業を実施した学校は下記のとおり。</p> <p>【小学校】 循誘、赤松、久保泉(佐賀市) 岩松(唐津市) 有明南(有明町)</p> <p>【中学校】 金泉、大和特別支援学校(佐賀市) 山内(武雄市)</p> <p>【高校】 高志館、佐賀商(佐賀市) 伊万里、伊万里特別支援学校(伊万里市) 牛津(小城市)</p> <p>小中高校に派遣するがん教育支援員の新人発掘と質の向上を図るため、がん教育支援員養成講座を6月~7月に計5回実施した。</p> <p>がん教育支援員養成講座</p> <table border="1"><tr><td>とき</td><td>令和3年6月~7月の土曜日計5回(13時受付開始、1回90分程度)</td></tr><tr><td>ところ</td><td>佐賀市商工ビル7階(佐賀市白山2丁目I-15、駐車場あり)</td></tr><tr><td>対象</td><td>がん体験者またはその家族</td></tr><tr><td>参加費</td><td>無料</td></tr></table> <p>内容は下記のとおり。</p>		とき	令和3年6月~7月の土曜日計5回(13時受付開始、1回90分程度)	ところ	佐賀市商工ビル7階(佐賀市白山2丁目I-15、駐車場あり)	対象	がん体験者またはその家族	参加費	無料
とき	令和3年6月~7月の土曜日計5回(13時受付開始、1回90分程度)								
ところ	佐賀市商工ビル7階(佐賀市白山2丁目I-15、駐車場あり)								
対象	がん体験者またはその家族								
参加費	無料								

- 6月26日(土) 開講式(吉野徳親クレブスサポート理事長あいさつ)  
「小学生からのがん教育」講師:中川原章先生(小児がん専門医)
- 7月3日(土) 「佐賀県におけるがん教育の現状」  
講師:西村茜佐賀県教育庁保健体育課 指導主事
- 7月10日(土) 「がん教育の経験を語る」  
講師:宮地智寿子(がん教育支援員) 進藤和美(同)  
立石順子(同) 中嶋 巧(同) ほか
- 7月17日(土) 受講生による模擬授業
- 7月31日(土) 受講生による模擬授業  
閉講式(修了証交付)

### 3 がん対策基金>

がん対策基金は2019年度に設立した。ふるさと納税寄付金を活用して資金を蓄え、県内のがんに関する学術研究および活動に対し、原則として1団体100万円を贈呈している。

本年度は下記の2団体に計150万円を贈呈した。

- ・リレ<sup>^</sup>フォーライフ佐賀実行委員会(委員長 木原慶吾) 100万円
- ・がん患者さんにウィッグと帽子を提供する会(代表 荒川国子) 50万円

### <4 がん関連図書の出版>

佐賀県が全国に先駆けて中学3年生を対象に行っているピロリ菌検査について現状と効果を検証する本の出版を令和4年度に計画。そのための取材、調査などの準備をした。執筆を依頼した佐賀大学医学部チームがコロナの影響で十分に執筆ができなかったため執筆料など100万円は次年度に繰り越した。

### <5 コロナ対策>

事務所やがんサロンのコロナ感染防止対策としてマスクをはじめ自動検温器や空気清浄機を購入、必要に応じてアクリル板の設置などを行った。

### <6 固定IPアドレス環境整備>

第1事務所に固定IPアドレスを導入し、個人情報保護などセキュリティー対策に万全を期した。

## 事業実施の成果・効果(見込み)

### <1 がんサロン>

がん体験者の間で最もニーズが高い「体験談や同病者との交流の場」であるがんサロンを気軽に訪ね、自身の不安や悩みを吐露することによって孤立を防ぎ、笑顔を取り戻してもらった。非対面・非接触のオンラインWeb相談に取り組み、在宅療養の患者・家族とも交流することができた。

### <2 がん教育支援員の派遣と養成>

幼少期からのがん教育により、子どもたちに「がんについての正しい知識」や「命の大切さ」を教えるだけでなく、児童生徒および保護者に感想文を書いてもらうことによって親の禁煙や節酒の意識を向上させ、がん教育の効果が家庭や地域社会へと広がった。

### <3 がん対策基金>

がん対策基金からの寄付贈呈は、資金不足に悩む主に佐賀大学などのがん研究を後押しすることができる。たとえ少額であっても県内市民団体からの贈呈は新鮮であり、研究意欲の増大につながる。機会あるごとに基金を積み増しして運用すれば佐賀大学医学部のがんゲノム研究や人材育成および新薬の開発などに貢献できる。

### <4 がん関連図書の出版>

ピロリ菌検査についてまとめた報告書がないのが現状。医学的、疫学的に考察した本を出版して佐賀県の取り組みを全国に知らしめたい。ピロリ菌除去による胃がん脱却の取り組みは、佐賀県における肝がん死亡率全国ワーストワン脱却に次いで歴史に残る偉業となる。

#### < 5 コロナ対策 >

がん患者・家族が集まるがんサロンこそ、コロナ対策の万全が図られるべきだと考える。必要な機材設備を整えば、がん患者・家族の皆さんに安心して来てもらえる。

#### < 6 固定 IP アドレス環境整備 >

固定 IP アドレスの導入によって外部からの侵入を防ぎ、安心して個人情報等の管理運営ができる。

## 収 支 決 算 書

事業名		がんになっても安心して暮らせる地域社会の実現	
区 分		決算額 (円)	備 考
収 入	佐賀県ふるさと 寄附金	10,679,750	第1回交付 10,679,750 円
		10,000,000	前年度から繰り越しのがん対策基金
		2,050,000	第4回交付 2,050,000
	収入 計	22,729,750	
支 出	謝金	2,320,000	○がんサロン(2,212,000 円) 相談員 (@5000 円×2 名×12 ヶ月×8 ヶ所=960,000 円) ピアサポーター (@3,000 円×2 名×12 月×8 ヶ所=576,000 円) 事務局スタッフ (@3,000 円×2 名×12 月×8 ヶ所=576,000 円) オンライン化等指導料 (株式会社アイクリック 100,000 円) ○がん教育支援員派遣 (78,000 円) 医師およびがん教育支援員による小中高校への派遣費用は県体育保健課 が予算計上したので、当法人は計上しなかった。 事務局スタッフ (@3,000 円×2 名×13 校=78,000 円) ○がん教育支援員養成講座講師(30,000 円) 中川原章医師 10,000 円) がん教育支援員@5,000 円×4 人(20,000 円)
	旅費	283,251	○交通費 (航空機、電車、バス代等 283,251 円)
	印刷製本費	1,092,000	○本の出版準備。題名「ピロリ菌の本」(仮称) (1,092,000 円) 出版準備費 300,000 円 執筆料 792,000 円 (佐賀大学医学部小児科助教垣内俊彦チーム)
	消耗品費	448,020	○がんサロン茶菓子代 (2,000 円, ×12 ヶ月×8 ヶ所=192,000 円 ) ○インク紙代等 (100,020 円) ○ガソリン代 (156,000 円)
	使用料・賃借料	444,000	○固定 I P アドレス環境整備費 50,000 ○第2 事務所 家賃 (@30,000 円*12 ヶ月=360,000 円) 駐車場代 (7,000 円×12 ヶ月=84,000 円)

備品費	377,000	○がんサロンオンライン用端末機購入費（患者向け1台77,000円） ○動画撮影と再生装置（300,000円）
コロナ対策機器・ 設備費	521,507	○ コロナ対策（521,507円） ハイパーマスク代21,978円 スタンド型自動検温器4台316,800円 空気清浄機4台182,729円
がん対策基金の 贈呈	1,500,000	リレーフォーライフ佐賀実行委員会100万円 がん患者さんにウィッグと帽子を提供する会50万円
返礼品の調達に 係る費用	3,630,452	
返礼品の送付に 係る費用	223,520	
広報に係る費用	0	
事務に係る費用	840,000	○ふるさと納税業務兼務職員給与（@70,000円×12ヵ月=840,000円）
次年度繰り越し	11,000,000	○がん対策基金10,000,000円 令和4年度予算収入として500万円取り崩す予定 ○「ピロリ菌の本」執筆料1,000,000円 令和4年度内に支払う予定
支出 計	22,729,750	

○支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。  
経理上の区分名で記載して構いません